

## 第4章 主要な疾病の状況

## 第4章 主要な疾病の状況

本章では、いわゆる5疾病<sup>55</sup>（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病及び精神疾患）及び肺炎の死亡数、推計患者数、医療機関の状況を示す。

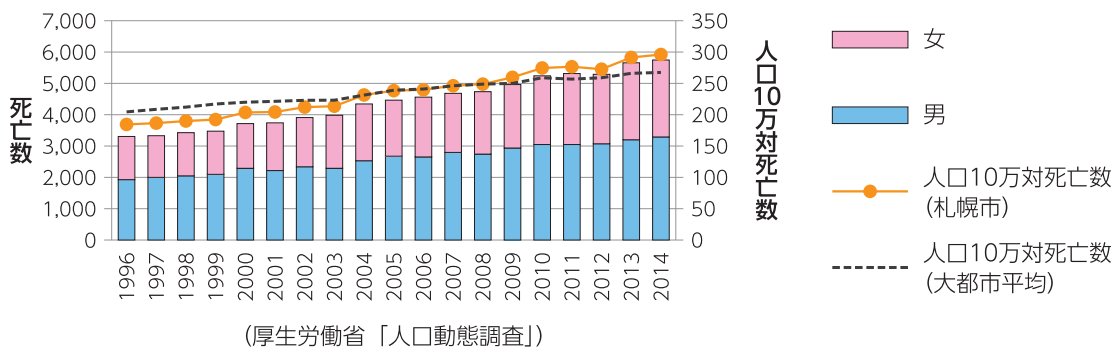
なお、同一の傷病名であっても調査ごとにその対象範囲が異なるため、本章では傷病名にICD-10コードを併記する。また、巻末に調査ごとの傷病名の比較を掲載する。

### 1 がん

#### (1) 死亡数の推移

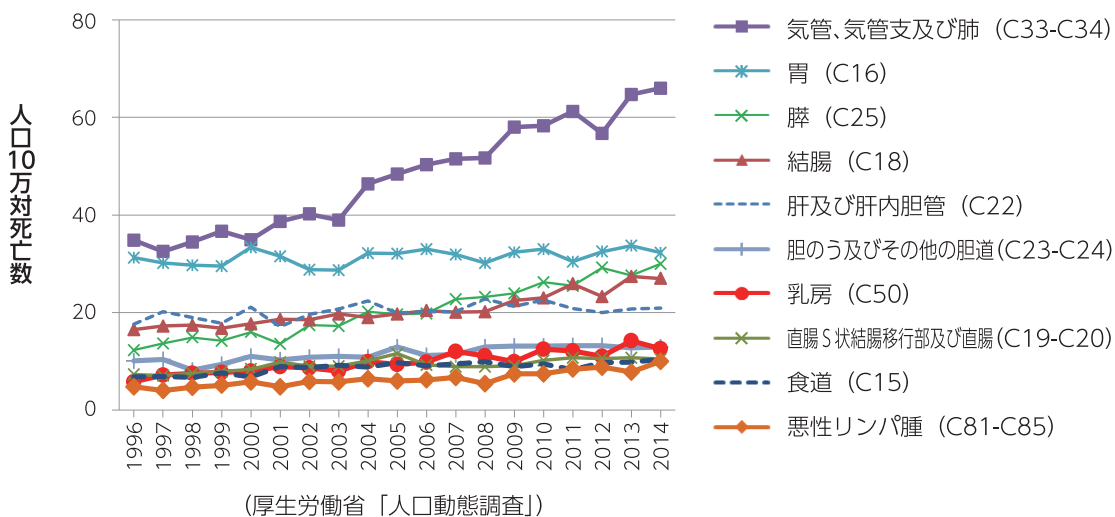
札幌市におけるがん（C00-C97）の死亡数は増加し続けており、2014年には5,783人となった。人口10万人当たりのがんの死亡数は、2014年の大都市平均では267.8人、札幌市では297.6人となっている。

図4-1 がんの男女別死亡数、人口10万対死亡数



また、札幌市におけるがんの種類<sup>56</sup>別人口10万人当たりの死亡数は図4-2のとおりであり、特に、「気管、気管支及び肺」（C33-C34）及び「膵」（C25）が増加している。

図4-2 がんの種類別人口10万対死亡数



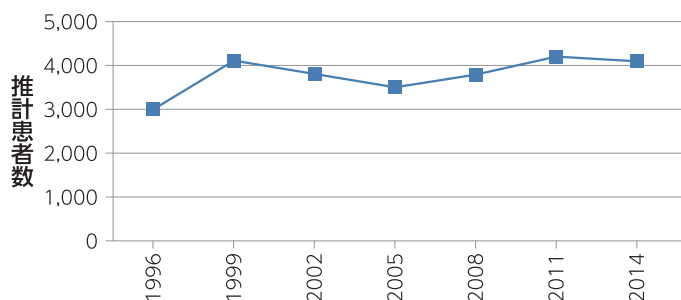
<sup>55</sup> 医療法第30条の4第2項第4号に掲げる「国民の健康の保持を計るために特に広範かつ継続的な医療の提供が必要と認められる疾病」をいう。

<sup>56</sup> 2014年の札幌市におけるがんの死亡数上位10種類を示す。

(2) 入院患者数の推移

札幌医療圏<sup>57</sup>内の病院におけるがん（C00-C97）の推計入院患者数はほぼ横ばいであり、2014年には4,100人となっている。

図 4-3 札幌医療圏内の病院におけるがんの推計入院患者数



(厚生労働省「患者調査」)

(3) 医療機関別の診療実績<sup>58</sup>

図4-2に掲載したがんについて、「DPC導入の影響評価に関する調査」（厚生労働省）により公表された、患者数が多い方から10施設における患者数（2014年）を以下に示す。

図 4-4 肺の悪性腫瘍

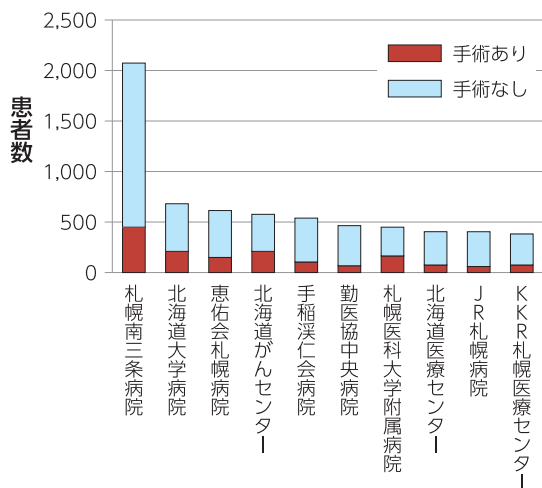
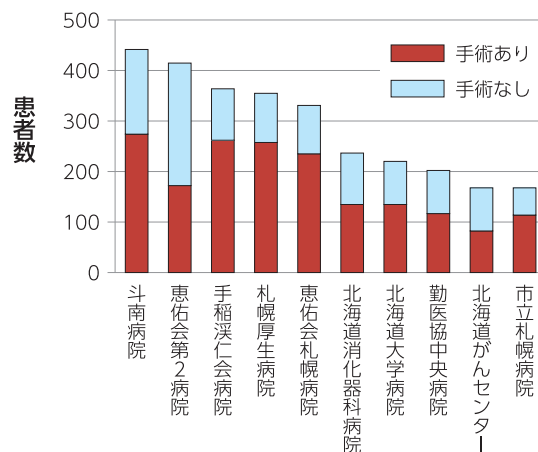


図 4-5 胃の悪性腫瘍



<sup>57</sup> 北海道医療計画において「地域の医療需要に対応して、医療資源の適正な配置と医療提供体制の体系化を図るための地域的な単位として定め」られた区域の一つであり、札幌市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、当別町、新篠津村の区域を含む。

<sup>58</sup> 手術の有無や種類別の症例数が10症例未満である場合は公表対象外となるため、実際の患者数とは異なる場合がある（以下本章において同じ。）。

図 4-6 脾臓、脾臓の腫瘍

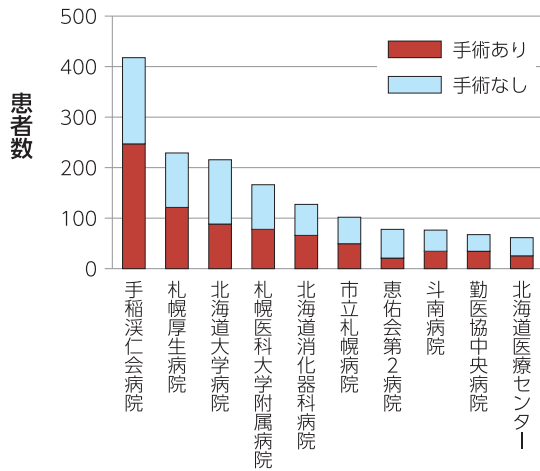


図 4-7 結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍

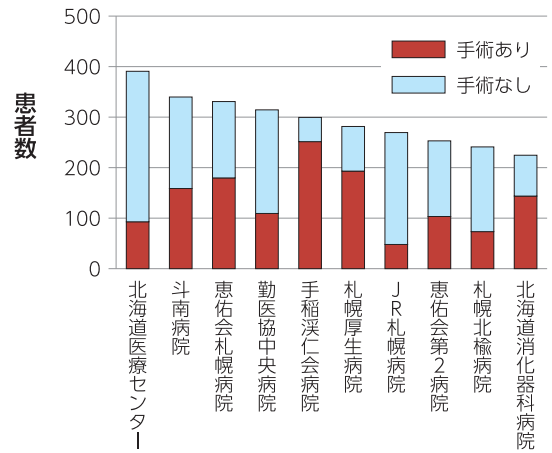


図 4-8 肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む。）

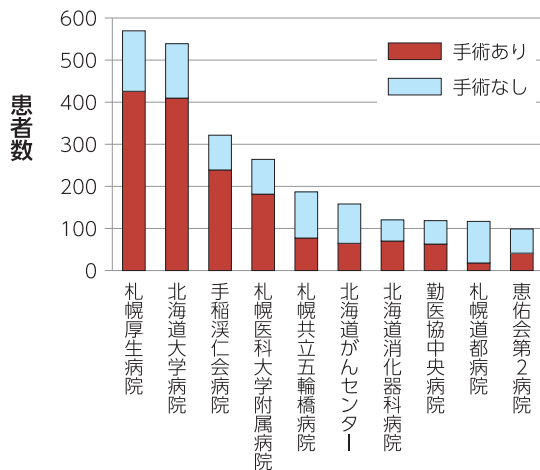


図 4-9 胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍

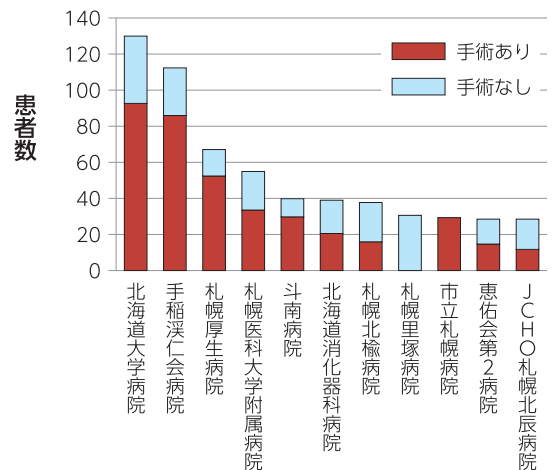


図 4-10 乳房の悪性腫瘍

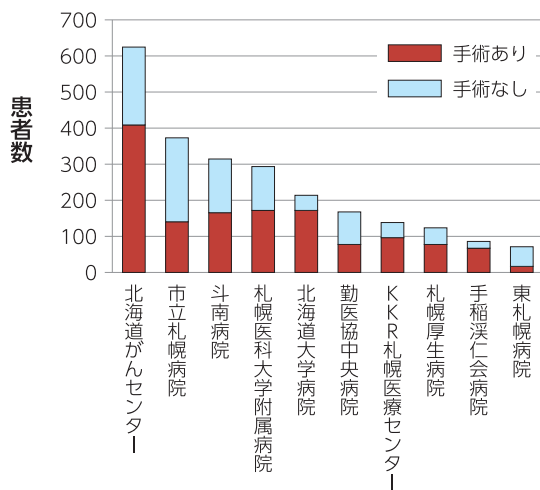


図 4-11 直腸肛門（直腸 S 状部から肛門）の悪性腫瘍

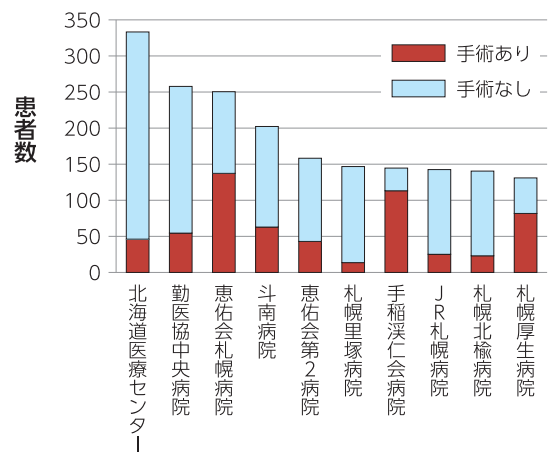


図 4-12 食道の悪性腫瘍（頸部を含む。）

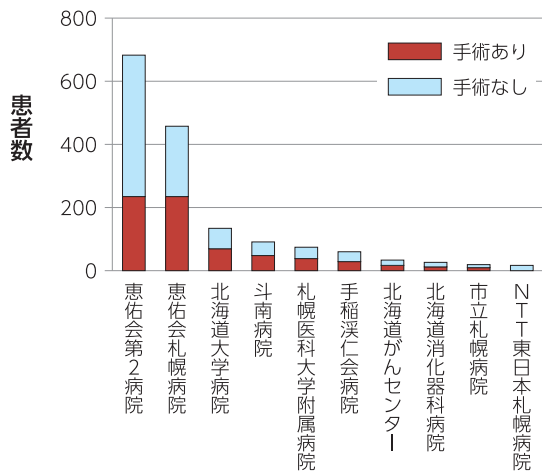
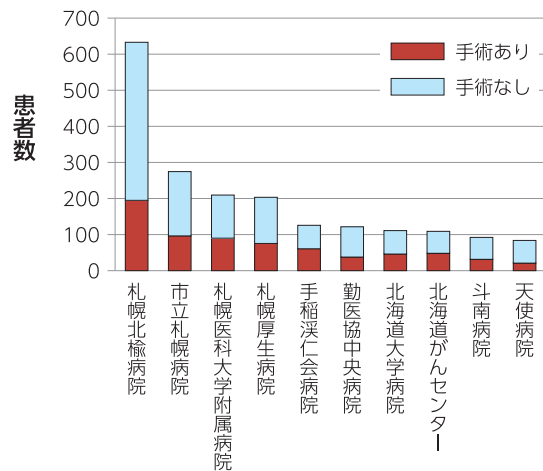


図 4-13 ホジキン病及び非ホジキンリンパ腫



なお、本節で示すがんの分類とICD-10コードの関係は下表のとおり。

DPC分類名	ICD-10コード
肺の悪性腫瘍	C33, C34, C78.0, D02.1, D02.2, D02.4
胃の悪性腫瘍	C16, D00.2
膵臓、脾臓の腫瘍	C25, D13.6, D13.7, D37.7, C26.1
結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍	C18, C26.0, C26.9, C78.5, D01.0
肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む。）	C22, C78.7, D01.5, D37.6
胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍	C23, C24
乳房の悪性腫瘍	C50, D05
直腸肛門(直腸S状部から肛門)の悪性腫瘍	C19-C21, C77.5, D01.1-D01.4
食道の悪性腫瘍（頸部を含む。）	C15.0-C15.5, C15.8, C15.9, D00.1
ホジキン病及び非ホジキンリンパ腫	C81.0-C81.3, C81.7, C81.9, C82.0-C82.2, C82.7, C82.9, C83.0-C83.9, C84.0-C84.5, C85.0, C85.1, C85.7, C85.9, C91.5

#### (4) 医療機関の分布状況

##### ア がん診療連携拠点病院<sup>59</sup>

区	施設数	区	施設数
中央区	3	豊平区	1
北区	1	清田区	0
東区	0	南区	0
白石区	2	西区	0
厚別区	0	手稲区	1

2013年1月1日現在 計8施設

図4-14 がん診療拠点病院の分布

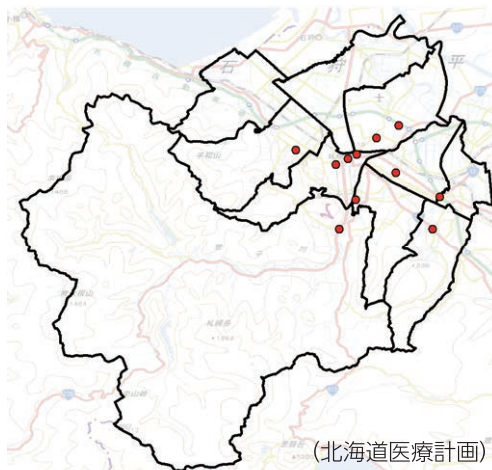


##### イ 北海道がん診療連携指定病院<sup>60</sup>

区	施設数	区	施設数
中央区	3	豊平区	1
北区	0	清田区	1
東区	2	南区	1
白石区	1	西区	1
厚別区	1	手稲区	0

2016年4月1日現在 計11施設

図4-15 北海道がん診療連携指定病院の分布



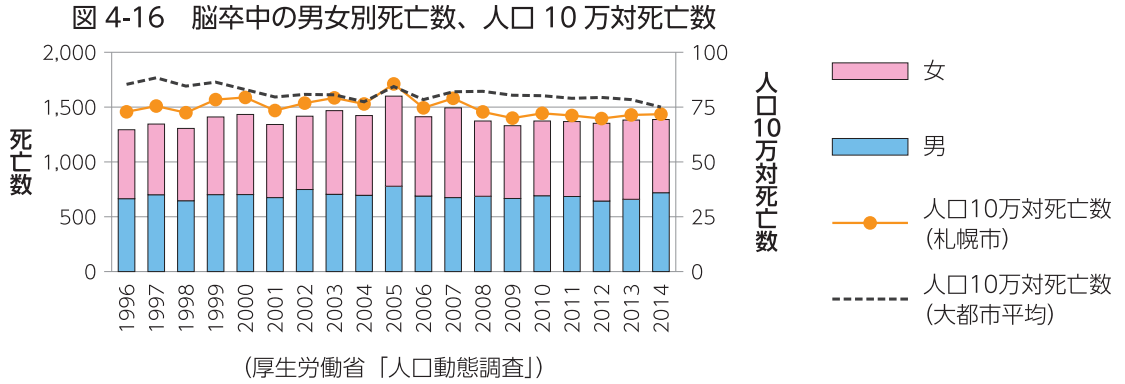
<sup>59</sup> 「がん診療連携拠点病院の整備に関する指針」により厚生労働大臣が指定した病院

<sup>60</sup> 「がん診療連携拠点病院」とは別に、「北海道がん診療連携指定病院整備要綱」により北海道知事が指定した病院

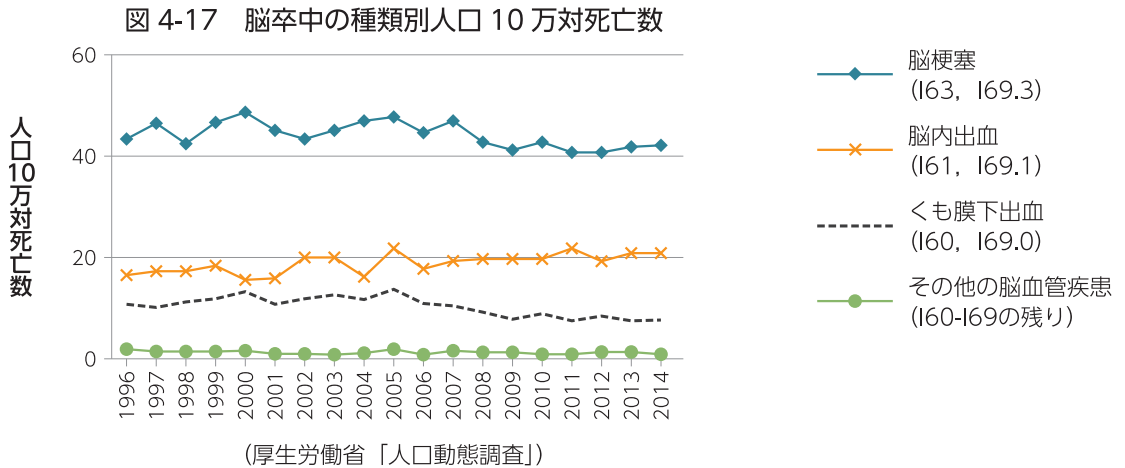
## 2 脳卒中

### (1) 死亡数の推移

札幌市における脳卒中<sup>61</sup>の死亡数はほぼ横ばいであり、2014年には1,389人となった。人口10万人当たりの脳卒中の死亡数は、2014年の大都市平均では75.1人、札幌市では71.5人となっている。

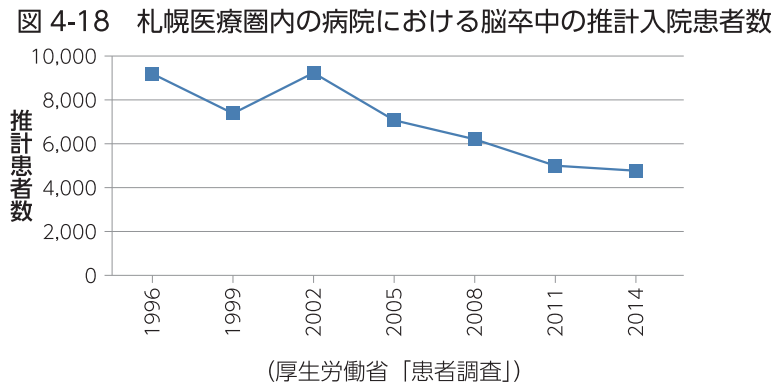


また、札幌市における脳卒中の種類別では、「脳梗塞」(I63,I69.3)の死亡率が高い状況にある。また、「くも膜下出血」(I60,I69.0)が減少傾向であるのに対し、「脳内出血」(I61,I69.1)は増加傾向にある。



### (2) 入院患者数の推移

札幌医療圏内の病院における脳卒中<sup>61</sup>の推計入院患者数は減少傾向にあり、2014年には4,700人となっている。



61 ここでは「脳血管疾患」(I60-I69)をいう。

(3) 医療機関別の診療実績

「DPC導入の影響評価に関する調査」（厚生労働省）により公表された、脳卒中の種類別の患者数が多い方から10施設における患者数（2014年）を以下に示す。

図 4-19 脳梗塞 (I63)

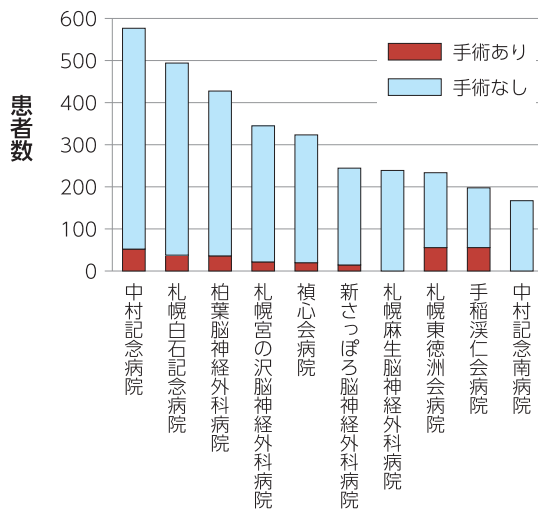


図 4-20 非外傷性頭蓋内血腫 (非外傷性硬膜下血腫以外) (I61, I62.9, I68.0, Q28.0-Q28.3)

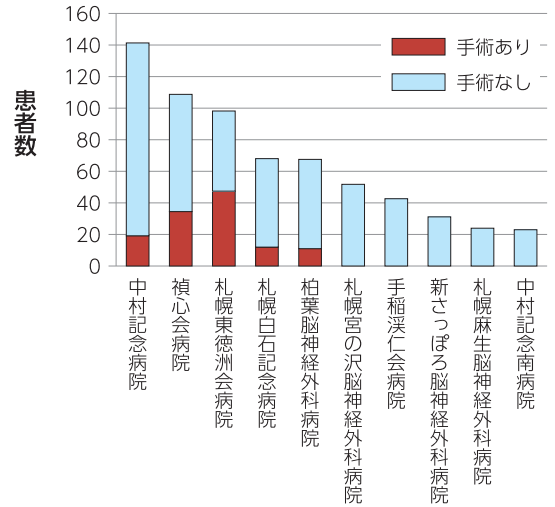


図 4-21 くも膜下出血、破裂脳動脈瘤 (I60)

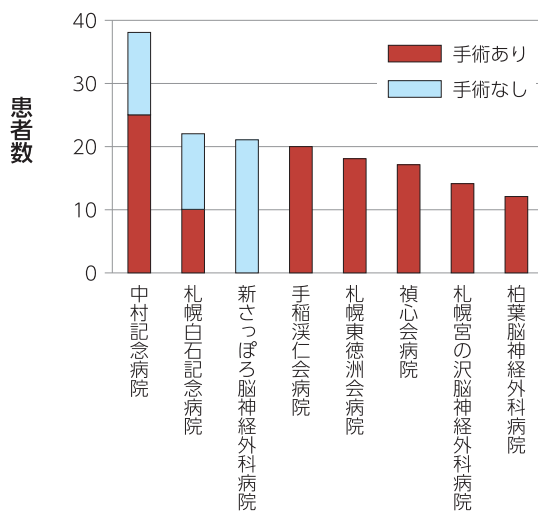
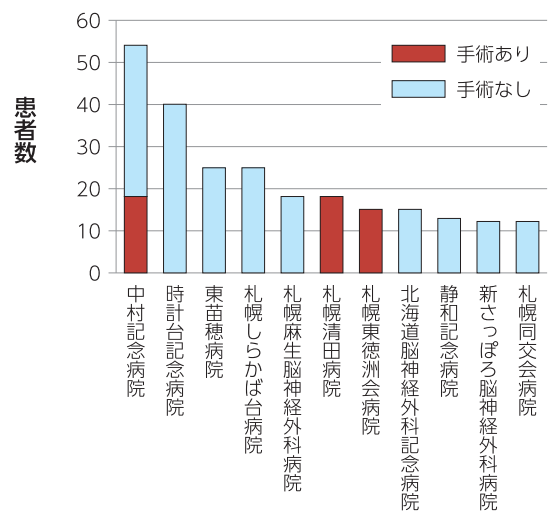


図 4-22 脳卒中の続発症 (I69, I97.8)





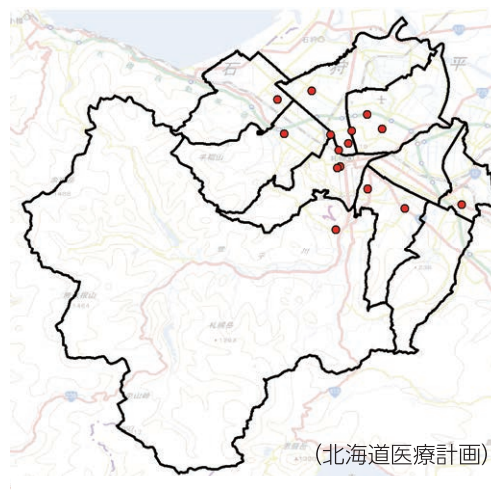
(4) 医療機関の分布状況

ア 脳卒中の急性期医療を担う医療機関<sup>62</sup>

区	施設数	区	施設数
中央区	3	豊平区	2
北区	2	清田区	0
東区	3	南区	1
白石区	0	西区	2
厚別区	1	手稲区	1

2016年4月1日現在 計15施設

図4-23 脳卒中の急性期医療を担う医療機関の分布

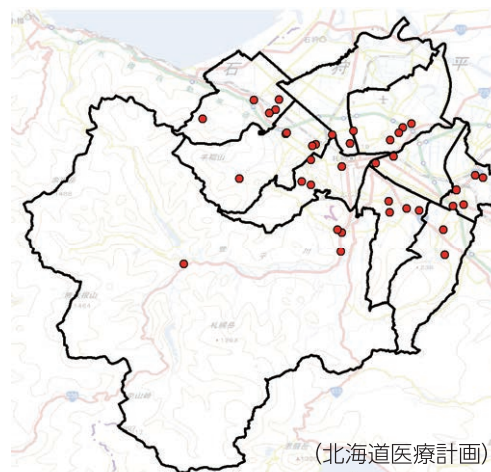


イ 脳卒中の回復期医療を担う医療機関<sup>63</sup>

区	施設数	区	施設数
中央区	4	豊平区	4
北区	1	清田区	2
東区	5	南区	4
白石区	2	西区	6
厚別区	5	手稲区	5

2016年4月1日現在 計38施設

図4-24 脳卒中の回復期医療を担う医療機関の分布



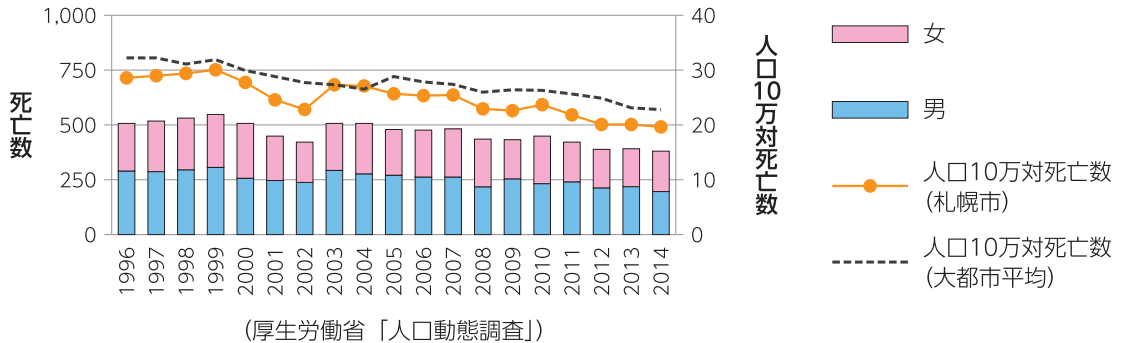
62 「北海道医療計画における脳卒中、急性心筋梗塞及び糖尿病の医療機能を担う医療機関名公表事務取扱要領」（以下「公表要領」という。）に定める「脳卒中の急性期医療」の公表基準（血液検査及び画像検査が24時間対応可能であるなど）に合致する病院・診療所  
 63 公表要領に定める「脳卒中の回復期医療」の公表基準（脳血管疾患等リハビリテーション料の保険診療に係る届出をしているなど）に合致する病院・診療所

### 3 急性心筋梗塞

#### (1) 死亡数の推移

札幌市における急性心筋梗塞（I21-I22）の死亡数は減少傾向にあり、2014年には380人となった。人口10万人当たりの急性心筋梗塞の死亡数は、2014年の大都市平均では22.7人、札幌市では19.6人となっている。

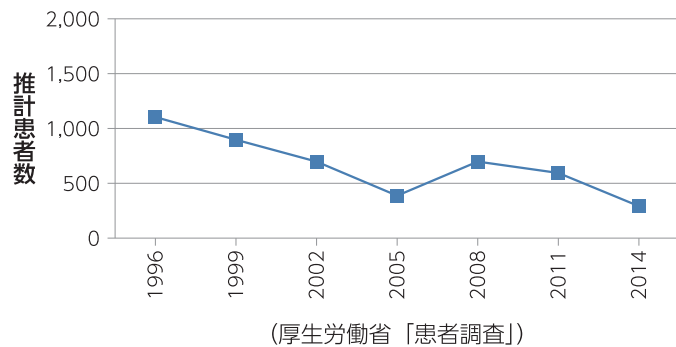
図 4-25 急性心筋梗塞の男女別死亡数、人口 10 万対死亡数



#### (2) 入院患者数の推移

札幌医療圏内の病院における急性心筋梗塞<sup>64</sup>の推計入院患者数は減少傾向にあり、2014年には300人となっている。

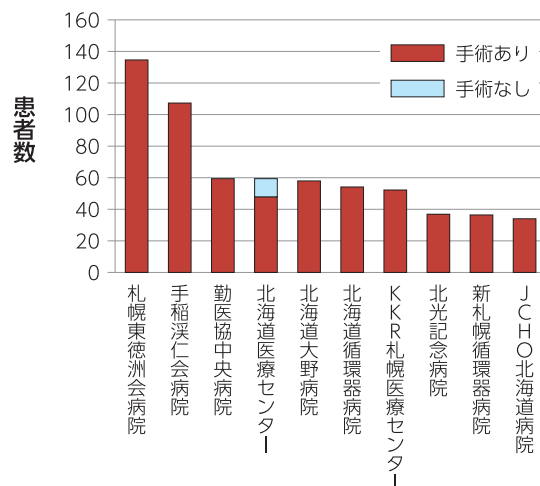
図 4-26 札幌医療圏内の病院における急性心筋梗塞の推計入院患者数



#### (3) 医療機関別の診療実績

「DPC導入の影響評価に関する調査」（厚生労働省）により公表された、急性心筋梗塞（I21-I24,I51.0）の患者数が多い方から10施設における患者数（2014年）を以下に示す。

図 4-27 急性心筋梗塞



64 ここでは「虚血性心疾患」（I20-I25）をいう。

#### (4) 医療機関の分布状況

ア 急性心筋梗塞の急性期医療を担う医療機関<sup>65</sup>

区	施設数	区	施設数
中央区	7	豊平区	2
北区	2	清田区	0
東区	6	南区	1
白石区	0	西区	1
厚別区	2	手稲区	0

2016年4月1日現在 計21施設

図4-28 急性心筋梗塞の急性期医療を担う医療機関の分布

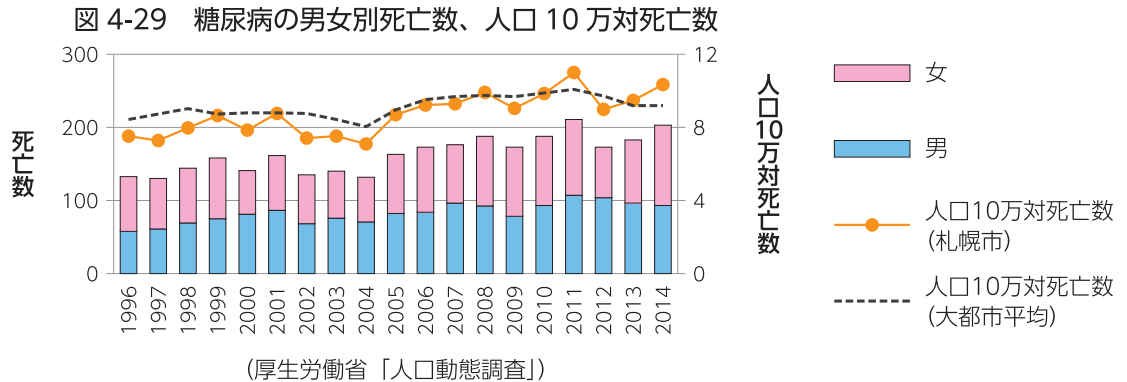


<sup>65</sup> 公表要領に定める公表基準（放射線等機器検査が24時間対応可能であるなど）に合致する病院・診療所

## 4 糖尿病

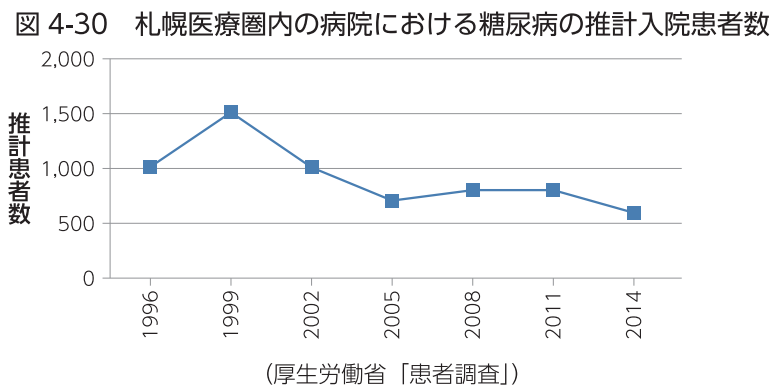
### (1) 死亡数の推移

札幌市における糖尿病（E10-E14）の死亡数は増加傾向にあり、2014年には202人となった。人口10万人当たりの糖尿病の死亡数は、2014年の大都市平均では9.2人、札幌市では10.4人となっている。



### (2) 入院患者数の推移

札幌医療圏内の病院における糖尿病（E10-E14）の推計入院患者数は減少傾向にあり、2014年には600人となっている。



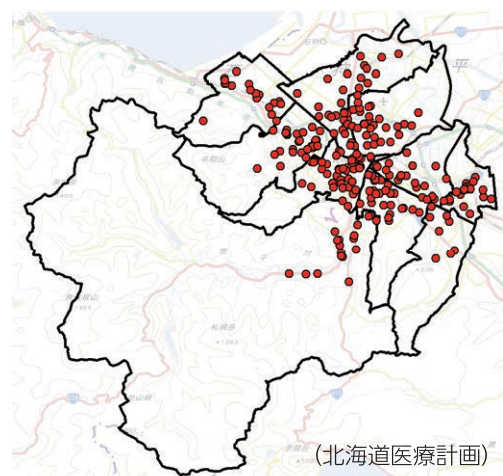
### (3) 医療機関の分布状況

ア 糖尿病の医療機能を担う医療機関<sup>66</sup>

区	施設数	区	施設数
中央区	49	豊平区	25
北区	33	清田区	8
東区	28	南区	19
白石区	20	西区	32
厚別区	19	手稲区	18

2016年4月1日現在 計251施設

図4-31 糖尿病の医療機能を担う医療機関の分布

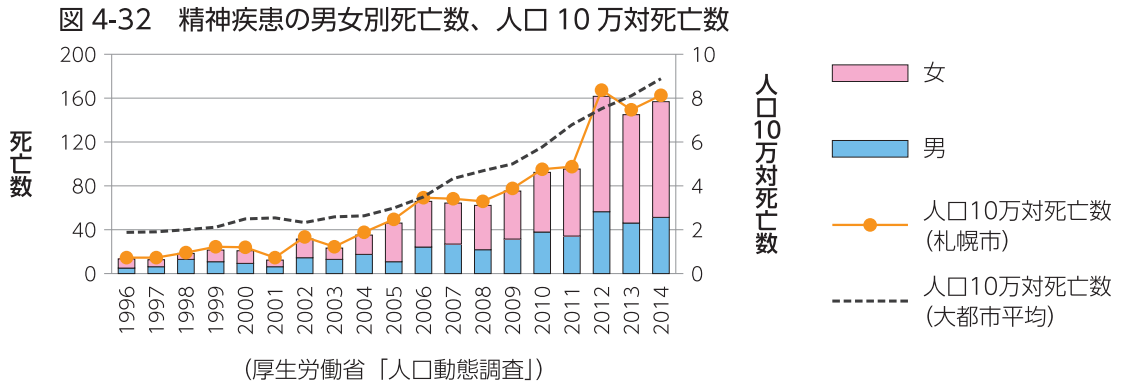


<sup>66</sup> 公表要領に定める公表基準（インスリン療法を行うことができることなど）に合致する病院・診療所

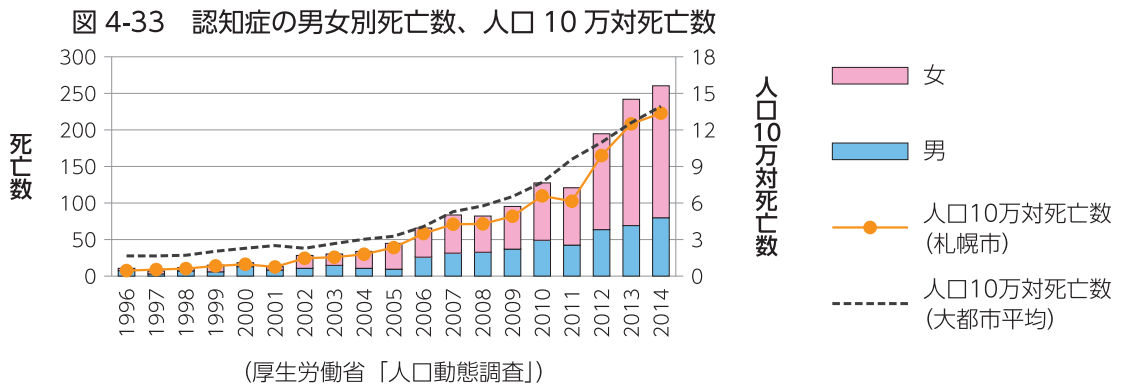
## 5 精神疾患

### (1) 死亡数の推移

札幌市における精神疾患<sup>67</sup>の死亡数は増加傾向にあり、2014年には157人となった。人口10万人当たりの精神疾患の死亡数は、2014年の大都市平均では8.9人、札幌市では8.1人となっている。

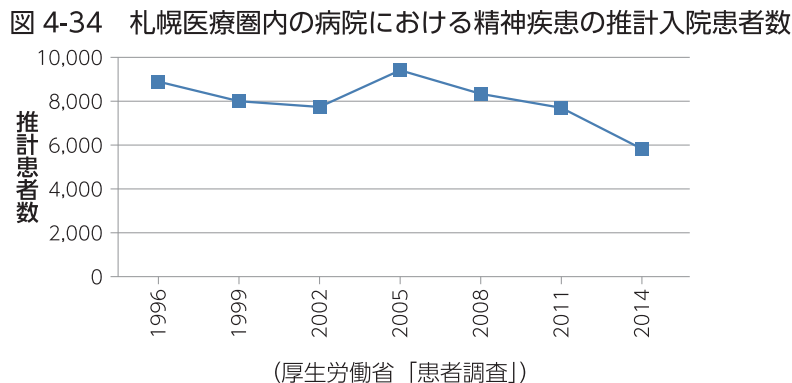


また、札幌市における認知症<sup>68</sup>の死亡数も急激に増加し、2014年には260人となっている。人口10万人当たりの認知症の死亡数は、2014年の大都市平均では14.0人、札幌市では13.4人となっている。



### (2) 入院患者数の推移

札幌医療圏内の病院における精神疾患 (F00-F99) の推計入院患者数は減少傾向にあり、2014年には5,800人となっている。

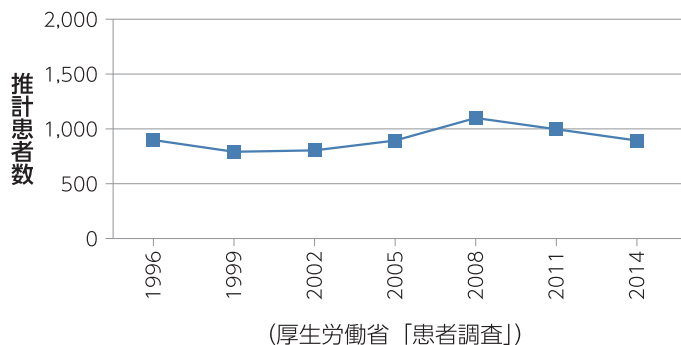


67 ここでは「精神及び行動の障害」(F00-F99)をいう。

68 ここでは「血管性及び詳細不明の認知症」(F01-F03)及び「アルツハイマー病」(G30)をいう。

このうち、気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）（F30-F39）の推計入院患者数はほぼ横ばいであり、2014年には900人となっている。

図 4-35 札幌医療圏内の病院における気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）の推計入院患者数



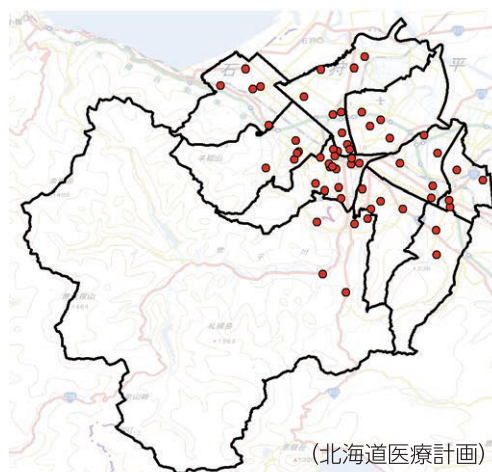
### (3) 医療機関の分布状況

ア 精神疾患の「予防・アクセス」、「治療・回復・社会復帰」に係る医療機能を担う医療機関<sup>69</sup>

区	施設数	区	施設数
中央区	16	豊平区	4
北区	9	清田区	2
東区	4	南区	5
白石区	5	西区	5
厚別区	4	手稲区	5

2016年1月1日現在 計59施設

図4-36 「予防・アクセス」、「治療・回復・社会復帰」に係る医療機能を担う医療機関の分布

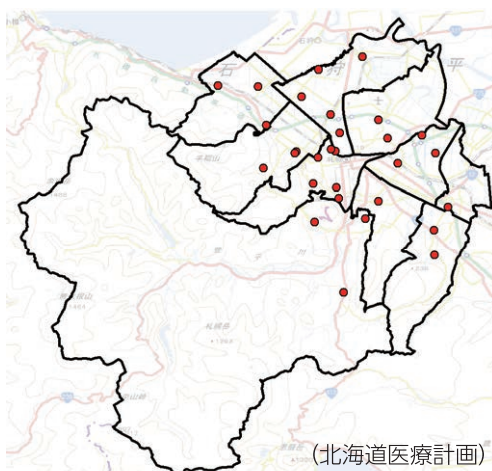


イ 精神科救急・身体合併症に係る医療機能を担う医療機関<sup>70</sup>

区	施設数	区	施設数
中央区	6	豊平区	1
北区	5	清田区	2
東区	2	南区	3
白石区	3	西区	3
厚別区	1	手稲区	3

2016年1月1日現在 計29施設

図4-37 精神科救急・身体合併症に係る医療機能を担う医療機関の分布



<sup>69</sup> 北海道医療計画に定める公表基準（精神病床を有する病院、精神疾患の保険診療に係る届出をしている医療機関など）に該当する医療機関

<sup>70</sup> 北海道精神科救急医療体制整備事業実施要綱に定める「精神科救急医療施設」「合併症受入協力病院」「後方支援病院」

ウ 児童精神医療に係る医療機能を担う医療機関<sup>71</sup>

区	施設数	区	施設数
中央区	3	豊平区	1
北区	0	清田区	0
東区	2	南区	2
白石区	0	西区	0
厚別区	4	手稲区	1

2016年1月1日現在 計13施設

図4-38 児童精神医療に係る医療機能を担う医療機関の分布

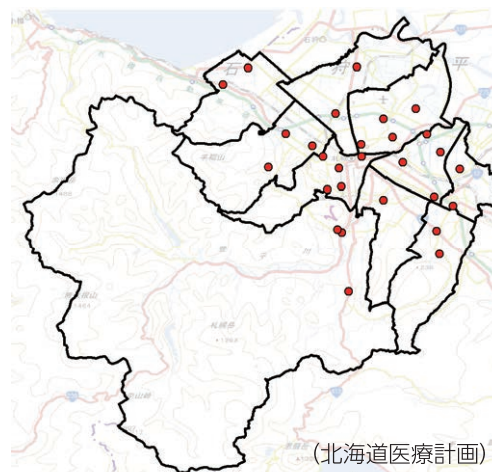


エ 認知症に係る医療機能を担う医療機関<sup>72</sup>

区	施設数	区	施設数
中央区	5	豊平区	1
北区	2	清田区	2
東区	4	南区	3
白石区	4	西区	3
厚別区	2	手稲区	2

2014年1月1日現在 計28施設

図4-39 認知症に係る医療機能を担う医療機関の分布



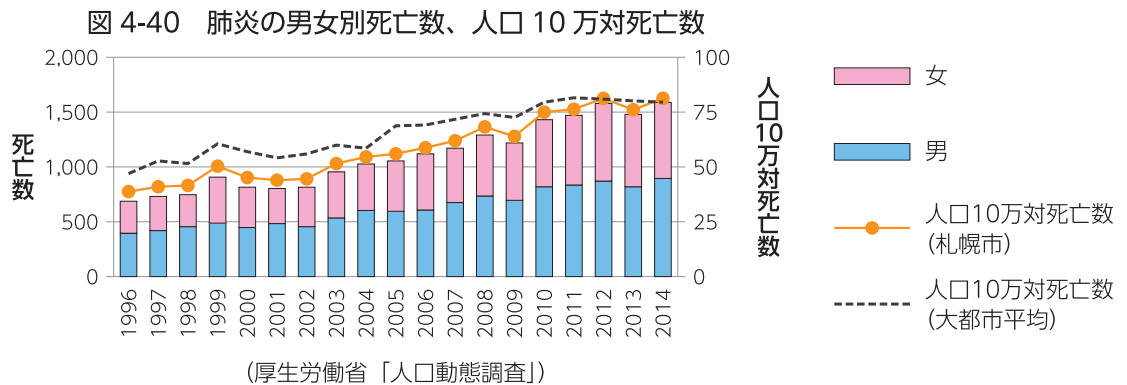
71 北海道医療計画に定める公表基準（児童精神医療の保険診療に係る届出をしている医療機関など）に該当する医療機関

72 北海道医療計画に定める公表基準（認知症の鑑別診断を実施することができる医療機関、専門医が専任配置されている医療機関など）に該当する医療機関

## 6 肺炎

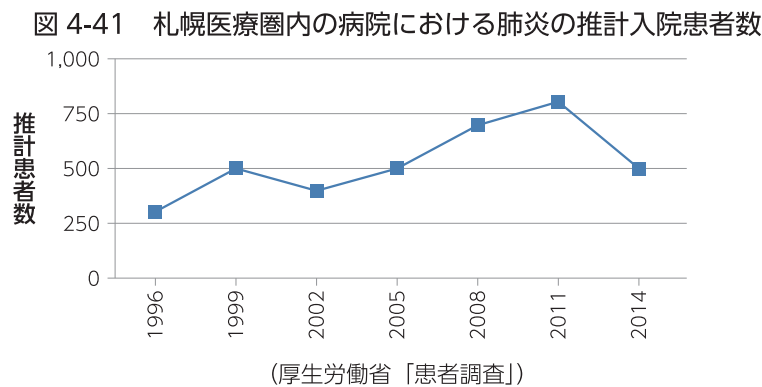
### (1) 死亡数の推移

札幌市における肺炎（J12-J18）の死亡数は増加傾向にあり、2014年には1,597人となった。人口10万人当たりの肺炎の死亡数は、2014年の大都市平均では79.5人、札幌市では82.2人となっている。



### (2) 入院患者数の推移

札幌医療圏内の病院における肺炎（J12-J18）の推計入院患者数は2011年まで増加傾向であったが、2014年には減少し、500人となっている。



### (3) 医療機関別の診療実績

「DPC導入の影響評価に関する調査」（厚生労働省）により公表された、「肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎」（A37.0, A37.8, A37.9, A48.1, B01.2, B05.2, B37.1, B59, J13-J18, J20-J22）及び「誤嚥性肺炎」（J69）の患者数が多い10施設における患者数（2014年）を以下に示す。

図 4-42 肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎

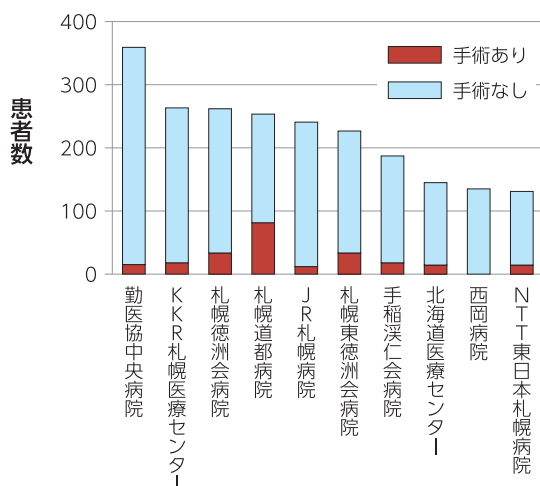


図 4-43 誤嚥性肺炎

